

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

省みて1年

(今年体験した幾つかのこと)

年の瀬を迎えて、改めて想うのは「時の過ぎ行く速さ」である。余りにも速い、そう感じる方は多いと思う。昔は歳のせいだと思っていた。今もそういう要素はあるが、それだけでなくグローバル化した経済、飛躍的に増加する情報等私達個人を取り巻く環境変化に上手く対応できない苛立ちのようなものが背景にあるように思う。

そうして今年も1年が過ぎようとしている。そんな中、会津八一が学生に与えた秋艸堂学規(しゅうそうどうがっき)を今一度思い出してみる。

- 一、 深くこの生を愛すべし
- 一、 省みて己を知るべし
- 一、 学芸を以って性を養うべし
- 一、 日々新面目あるべし

今年1年を振り返ってみて、とても「日々、新面目」等という訳にはいかないが、学んだ幾つかを辿り省みてみる。

民事再生法を只中で体験した。今年、私の周辺で3社が民事再生法の適用申請を行ったが、内1社は弁護士との相談・協議から始まって、書類作成その他までかなり近い所で経験することができた。勿論、民事再生法を体験できたこと自体を喜んでいるのではなく、一つの法人の法的整理の枠組みを理解することによって、信用調査会社が云う所の「大倒産時代」の行き方の一つを学べたのがいい勉強となった。7月の暑い時期に協議がスタートし9月に申請に至ったこの会社の場合、結局会社の再生は出来ず清算型民事再生となったが、民事再生に清算型があることも初めて知った。

今、それ以外に年越しの案件を抱え藻掻いている。それらが特定調停になるのか民事再生になるのか判らないが、いずれにせよ金融機関その他とのバトルが展開されることになる。その結末は全く予断を許さない状況にある。

又、ある会社の整理を通じ、社長が突然死した中小企業の脆さを思い知った。あっという間に危機に陥り、あっという間に廃業の止む無きに至った。取引金融機関は豹変し、遺族に残された生命保険の大半は相殺の憂き目に会った。その上、延滞した借入金を保証人の土地売却代金を以って弁済した時、驚くべきことに元本総額に14%の遅

延損害金をかけてきた。ぶったくりである。

約定を盾に「弱きを挫く」行動に及んだ二つの金融機関名をここでは云わないが、「地域のために」とか「地域と共に」等の格好を付けた理念は即刻捨てた方がいい。「我々は金貸しだから約定に従って何でもやる」そう宣言した方がどれほどすっきりするか。来年は更に厳しい攻防が繰り広げられるに相違ない。

今春、「会社分割」という企業再編手法を直に経験できたことも良かった。一つの会社を二つに分割する、その最初から最後まで事務処理を行う中で、一つの法律ができたその後で、会計や税務がその解釈を確定して行くという事実を知った。昨年4月に施行されたばかりの会社分割は、未だ事例がほとんど無く実務面で難渋したことが返って勉強となった。

法と会計と税務、この異なる3つの側面をどう理解するか。本を何冊も買い込んで悩んだ。このことは、企業再編は角度の違う3つの方向から検討しなければならないことを教えてくれた。

又、今まで口だけで勧め実現まで遠かった「少人数私募債」に1社だけチャレンジした。結果として1500万程度の資金調達に終わったが、一定期間利払いのみの安定資金の調達ができる、低金利時代に金利5%を縁故者に支払うことで喜ばれる、縁故資金が入ることで経営に緊張感が出る、等私募債の威力は大きいものがあった。

その会社は銀行の対応も厳しく、決して財務内容が良い会社ではない。そんな会社でも支援してくれる方々はいらる。ゼロ金利の銀行に預金していてもお金は期待通り働いてはくれない。その死蔵されたお金ををいくらかでも活かすのが、現下における少人数私募債の意義だと思う。

日頃注目しているアナリストの一人である水野和夫氏が、新聞で「東西冷戦終結に端を発しているこのデフレは当分終わらない」と明言していた。私も同感だ。デフレの後に何が起こるのかは判らないが、来年もデフレを前提とした経営をしていかなければならないのは確実だと思う。苦しいだろうが知恵を振り絞ってやり抜くしかない。

尚、本年最後のレポートは土曜日ではなく27日(金)に送信しますので、お受け下さるようお願い申し上げます。

Weekly Fax Report

《複製・転載等はこちらまでご連絡下さい》

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

2002.12.21(第340号)

URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/ Email: smc_toyo@hi-ho.ne.jp